

IV 海外学生派遣

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学国際連携推進機構 公開日: 2024-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子, 松田, 紀子, ライアン, 優子, 袴田, 麻里, 比留間, 洋一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/0002000213

IV 海外学生派遣

熊井 浩子／松田 紀子／ライアン 優子／袴田 麻里／比留間 洋一

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い派遣が中止されていた国際連携推進機構派遣プログラムは、令和3年6月15日付文部科学省通知により、条件を満たせばレベル2、3であっても8月から派遣可となり、9月から大学間交流協定に基づく交換留学及びトビタテ！留学JAPANについての派遣を認めることになった。令和4年度も引き続きプログラムの中止や辞退等があったものの、交換留学に加えILUNO、春季イギリス短期研修、フランス春季短期留学プログラムを実施することができた。

オンライン留学や語学学習支援、留学説明会等も例年通り実施された。

1. 大学間交流協定に基づく交換留学

留学者は以下の通りであるが、令和3年度の8件に比べ、大幅に増加している。この中には、派遣先の状況から出発を半年遅らせたために、派遣期間が半年になってしまう前年度派遣予定学生が、さらに本年度派遣の面接を受け、トータルで留学期間を1年とした例が2件あった(No.1、12)。2名とも元々の希望派遣先を変更、そのうち1名は留学中に後半の半年を当初の希望先に変更するなど、コロナ禍によるイレギュラーな対応があった。また、コロナに対する不安から家族の賛成が得られずやむなく辞退した学生も1名いた(No.29)。

さらに、諸般の事情により、派遣期間終了の前に帰国した学生が2名いた。

なお、派遣前には日本イマージェンシーアシスタンスによるコロナ対応等のリスク管理、異文化理解等の内容で派遣前ガイダンスを全4回実施した。

No.	部局	学年	派遣先大学名	派遣期間	
				開始	期間
1	工	4	ドイツ・ヴッパータール大学	2022年春	1年*
2	情	2	ドイツ・ヴッパータール大学	2022年秋	1年
3	情	2	ドイツ・ヴッパータール大学	2022年秋	1年
4	情	2	ドイツ・ブランシュバイク工科大学	2022年秋	1年
5	農	2	ドイツ・ブランシュバイク工科大学	2022年秋	1年
6	農	1	ドイツ・ブランシュバイク工科大学	2022年秋	1年
7	工	4	ドイツ・ブランシュバイク工科大学	2022年秋	1年
8	情	3	スロバキア・コメニウス大学	2022年秋	1年
9	教育	2	スロバキア・コメニウス大学	2022年秋	1年
10	教育	2	スロバキア・コメニウス大学	2022年秋	1年
11	人文	3	スロバキア・コメニウス大学	2022年秋	1年
12	人文	3	ブルガリア・ソフィア大学→マレーシア・マラヤ大学	2022年秋	1年*
13	工	2	ラトビア・リガ工科大学	2022年秋	6ヶ月
14	情	3	ラトビア・リガ工科大学	2022年秋	1年
15	情	3	ルーマニア・アレクサンドル・イワン・クザ大学	2022年秋	1年
16	人文	2	ルーマニア・アレクサンドル・イワン・クザ大学	2022年秋	1年

17	人文	3	フランス・ロレーヌ大学	2022年秋	1年
18	工	4	フランスストロワ工科大学	2022年秋	6ヶ月
19	人文	2	チェコ・マサリク大学	2022年秋	1年
20	教育	2	チェコ・マサリク大学	2022年秋	1年
21	人文	3	慶北大学	2022年秋	1年
22	人文	2	台北科技大学	2022年秋	1年
23	教	3	アメリカ・ネブラスカ大学オハマ校	2022年秋	1年
24	教	2	アメリカ・ネブラスカ大学オハマ校	2022年秋	1年
25	人文	4	アメリカ・ネブラスカ大学オハマ校	2022年秋	1年
26	情	4	アメリカ・ネブラスカ大学オハマ校	2022年秋	1年
27	人文	3	カナダ・アルバータ大学	2022年秋	1年
28	情報	2	カナダ・アルバータ大学	2022年秋	1年
29	人文	1	中国・浙江大学	2023年春	6ヶ月*
30	工	3	中国・南京大学	2022年秋	1年
31	情	4	マレーシア・テイラーズ大学	2022年秋	1年

* 特別な対応のあった学生

2. オンライン海外研修

海外派遣に代わる措置として令和元年度末より実施していたオンライン海外研修については、全学教育科目の英語科目の単位認定に引き続き、令和3年度8月より初修外国語についても単位認定できるような制度を整えた。

令和4年の夏季には英語と韓国語、中国語、合わせて7本のプログラムを準備したが、参加があったのは5プログラム、8名であった。春季には英語、韓国語、計5プログラムを準備したが、参加があったのは1プログラム、4名であった。

このように、オンラインプログラムの参加者数自体は減少しているが、アンケートの結果でも参加者の満足度は依然高かった。今後も留学準備、あるいは留学に代わる語学・文化体験の機会としてそのメリットを学生に伝えつつ、プログラムを精選して引き続き実施していく予定である。

【夏季】

●英語科目

- ① カナダ・アルバータ大学オンライン短期プログラム 参加者3名
CSGCO (Communication Skills for Global Citizenship Online) プログラム
- ②-1 フィリピン・GITC(Green International Technological College) 英語・SDGs研修 参加者1名
Global Leader コース (グループ・マンツーマン)
- ②-2 フィリピン・GITC(Green International Technological College) 英語・SDGs研修 参加者1名
TOEICコース/IELTSコース (グループ・マンツーマン)
- ③ オーストラリア・ウーロンゴン大学 4 Week Virtual Study Tour 参加者なし
英語学習+SDGsプロジェクトワーク研修
- ④ オーストラリア・アデレード大学 英語学習+プロジェクトワーク研修 参加者なし

Global Jinzai Program

●初修外国語科目

○韓国語科目

韓国・慶北大学校 韓国語・韓国文化研修 参加者2名

Global Culture 2021 KNU Online Summer School

○中国語科目

東華大学 中国語・中国文化研修 参加者1名

2022年中国語夏期講習

【春期】

●英語科目

①-1 フィリピン・GITC(Green International Technological College) 英語・SDGs 研修

参加者なし

Global Leader コース (グループ・マンツーマン)

①-2 フィリピン・GITC(Green International Technological College) 英語・SDGs 研修

参加者4名

TOEIC コース / IELTS コース (グループ・マンツーマン)

②-1 オーストラリア・ウーロンゴン大学 英語学習 + SDGs プロジェクトワーク 研修

参加者なし

Project Unite Sustainable Development goals in Focus

②-2 オーストラリア・ウーロンゴン大学 4 Week Virtual Study Tour 参加者なし

英語学習 + SDGs プロジェクトワーク 研修

●初修外国語科目

○韓国語科目

韓国・慶北大学校 韓国語・韓国文化研修 参加者なし

Global Culture 2021 KNU Online Winter School

3. トビタテ！留学JAPAN

静岡大学ではこのプログラムに採択されて令和4年度に留学を予定していた学生は計1名（地域版0名）であったが、諸般の事情により辞退となり、派遣には至らなかった。

期	コース	滞 在 先	期間(か月)	所 属 学 部
2	新興国	中国	10	人文社会科学部
2	多様性	ニュージーランド	12	教育学部
4	多様性	フィリピン・タンザニア・オランダ	7	教育学部
4	多様性	ドイツ	12	人文社会科学部
4	多様性	アメリカ	6	人文社会科学部

期	コース	滞 在 先	期間(か月)	所属学部
5	理系	ドイツ	12	工学部
5	新興国	グアテマラ・パラグアイ・アルゼンチン	12	人文社会科学部
7	世界トップ	フィンランド	23	自然科学系教育部
10	理系	オーストラリア	9	総合科学技術研究科
10	新興国	マレーシア	10	人文社会科学部
10	多様性	チェコ、ドイツ	11	人文社会科学部
11	理系	ラトヴィア	10	総合科学技術研究科
11	理系	アメリカ合衆国	11	自然科学系教育部
12	理系	オランダ	10	農学部
14	多様性	カナダ	7	人文社会科学部
7	地域人材	ドイツ	2	人文社会科学部
9	地域人材	カナダ	8	総合科学技術研究科工学専攻
9	地域人材	アメリカ	6	総合科学技術研究科情報学専攻
9	地域人材	ニュージーランド	12	地域創造学環
10	地域人材	チェコ	5	教育学部
11	地域人材	フィリピン・マレーシア	12	工学部

4. 春期短期留学

① イギリス、チチェスターカレッジ短期語学研修 (Ryan)

A) 実施概要

期間：令和5年2月25日(土)～3月27日(月)、30日間

研修機関：チチェスターカレッジ (Chichester College)

参加者数：12名 (人文社会学部1名、教育学部4名、理学部1名、農学部1名、情報学部3名、工学部2名)

渡航前ガイダンス (3回)：11月15日、1月18日、2月16日

英語コース：General English Intensive コース。全授業時間は84時間 (週21時間×4週間)。渡英前にプレースメントテストを受け、レベル別にクラスに配置される。

B) 成果と課題

コロナ禍の中断を経て、2年ぶりの派遣となった令和4年度のプログラムには、全6学部から参加者が集まった。これまでの受入校が短期の学生受入をできなくなったため、

イングランド南部の小規模な街に位置するチチェスターカレッジに新たに派遣することとなった。渡航後の参加者を対象にしたアンケートでは、回答者9名の全員が「プログラム全体」の項目で「満足」もしくは「どちらかといえば満足」と答え、満足度が高いという結果となった。またホームステイについては9名中8名が「満足」、1名が「どちらかといえば満足」と答え、宿泊先が現地の家庭であったことは、留学経験の充実につながった様子である。

留学の成果を聞いた質問では、「英語を勉強するモチベーションがあがった」に回答者全員が「あてはまる」と答え、うち5名は「これから取り組むこと」に英語学習をあげたことから、留学経験が英語学習動機の形成に正の効果を持つという結果が見られた。引率者をつけずに派遣をし、アンケート回答者の全員が「引率者がいなくても大丈夫であった」と答えているため、今後も学生のための派遣を行う方針である。

② フランス夏季・春季短期留学プログラム（松田）

本プログラムは、フランスの公式機関であるフランス政府留学局 Campus France パリ本局により平成27年度から日本の大学の夏季及び春季休暇に合わせて提供されているものである。本学は開始時から短期プログラムと位置づけ、平成30年度より研修修了後「全学教育科目」の「初修外国語科目（フランス語）」2単位の認定可能とした。

コロナ禍を経て、R4年度春（R5年2月）に久しぶりの開催となり、本学からも派遣1名で実施された。プログラムの概要は以下のとおりである。

期間：春季は2月上旬からの4週間（前後に移動日）

研修機関：サン＝ティエンヌ大学附属 ティエンヌ大学附属 語学・文明国際センター（Le CILEC de Sainte-Etienne）、またはグルノーブル大学附属フランス語教育センター（Le CUEF de Grenoble）。

費用：約70万円

プログラム費用（受け入れ先語学学校の登録料・授業料、フランス滞在中の健康保険料、宿泊費、文化アクティビティ参加費、グループ単位での空港送迎費）として、2100ユーロ（大学寮個室）あるいはホームステイ（朝・夕食込み）2500ユーロ。これに、参加学生が各自で手配する日本国内移動及び日本・フランス往復旅費が加わる。

プログラム内容：

①フランス語短期集中講座：受講生は、個別面接を含むクラス分けテストを受け、個別カルテが作成されるとともに、それぞれのレベルに合ったクラスに配置される。月曜から金曜まで、受講時間数は週20時間、4週間での総受講時間数は80時間。フランスの文化や文明をも学べるよう、授業では、広告、メディアの記事、ビデオ、文学作品など、実際の資料を用い、多様な言語活用シーンを想定して、コミュニケーションを重視したアプローチをとっている。到達レベルを記した証明書を、プログラム終了時に発行。

②文化・スポーツアクティビティ：一日または半日のさまざまなアクティビティや社会見学などを企画。

本プログラムは、研修機関として質の高い機関への短期学生派遣を、学内の運営コストを抑えて実施できるプログラム（申し込み手続きは大学がCampus Franceとの間で行

うが、現地空港到着・出発時のグループ単位での「送迎」サービスが含まれているため大学教職員等の引率は不要)として、継続して提供する。

5. 海外留学フェア

令和4年度前期は5月12日、後期は10月13日にオンラインでの実施となり、それぞれ65名、33名が参加した。

さらに、国際交流ラウンジにて定期的にTo the world! 留学相談サロンという相談会を開催しており、令和4年度は10名が参加した。

6. 英語学習支援

静岡大学では「地域と連携したグローバル戦略（産業界等と連携したグローバル人材育成のシステムの開発と人材育成）」を掲げており、機構においても、国際交流ラウンジでの活動に加え、英語科目部との連携などにより学生の英語学習を支援し、交流活動、留学などにつなげることを目指している。令和4年度はこれまで実施してきたTOEIC学習・受験支援及びTOEFLテスト説明会、TOEFL ITP実施に加え、TOEFL学習・受験支援を実施した。

●TOEFL説明会及びTOEFL TOEFL対策プログラム+ITPテスト受験

令和4年度は、7月7日と12月1日にETS JAPANの担当者によるZoom TOEFL説明会を実施したほか、語学学習支援の中でもより留学希望者に特化した支援として本年度より、練習問題を解きながらTOEFL攻略法や問題を解くコツなどを学習する対策プログラム(全5回)とTOEFL ITP テスト受験を組み合わせたTOEFL対策講座を8月にオンラインで実施し、30名(うち、受験者25名)の参加があった。

また、それ以外にも3回のITP(TOEFL団体受験)試験の開催を計画した。(うち、2回は催行最低人数を下回ったため中止となった。)

学内試験： 2022/9/15、2022/10/20(中止)、2023/11/24(中止)

●TOEIC・TOEIC学習・受験支援

令和2年度よりオンラインによるTOEIC対策集中講座およびTOEIC受験料補助を開始したが、令和4年度も11月に対策講座(全5回)とIPテスト受験を実施、32名(うち、受験者29名)の参加があった。

●英語科目部との連携(松田、袴田)

令和2年度の新カリキュラム施行により、学生に早い段階から留学に興味を持ってもらうための科目として、全学教育科目の英語科目に英語コミュニケーション中級以上を履修条件とした「ESP I(留学)」が1年生を対象として開講され、国際連携推進機構はこの授業に協力している。この科目は、英語コミュニケーション中級以上が履修条件で、入学直後から海外留学に関する情報や知識を得ること、留学準備として英語を学ぶことを目的

とする。国際連携推進機構教員は、留学プログラムやグローバルアジア特別教育プログラム（GASP、p.53参照）、国際交流ラウンジなど、本学が持つグローバル教育等のリソースについて情報を提供する。

令和4年度は、浜松キャンパスに1クラス増設され、両キャンパス2クラスとなった。静岡キャンパスでは2クラス61名の受講者に対し3名の教員が4コマを使って、海外留学プログラム、GASP、国際交流ラウンジなどについて情報提供を行うとともに、各教員の多様な留学・海外実務経験を紹介した。浜松キャンパスでは2クラス74名の受講者に対し、3名の教員が4コマを使い、静岡キャンパスと同様の情報提供に加え、留学生との交流セッションや留学経験者の体験談などで協力した。

令和2年度がオンラインであったのに対して、令和3年度に引き続き令和4年度も対面で授業を実施できたことにより、オンデマンド（新入生セミナー）等で提供されていた留学やGASPなどの情報を直接届けることができた。加えて、留学経験談、留学生とのセッションや発表を対面で実施できた効果は大きい。海外への渡航制限が緩和され、海外留学が可能な状況になっており、令和5年度交換留学派遣希望学生数（令和4年夏～秋募集時）、春季短期留学参加学生数（令和5年2月実施、イギリス・フランス）も大きく伸びており、留学への動機づけを強化したと思われる。「ESP1」の受講者には、効果測定とプログラム改善を目指し、アンケート調査（BEVI）を実施した。

引き続き、英語科目部との連携維持、強化に努め、効果的に海外留学に関わる情報提供やイベント実施することで海外留学希望者の増加を促したい。

7. プログラム改善のための調査（比留間）

令和4年度から新たに、大学間協定に基づく交換留学プログラム（9か月以上）参加者を対象にBEVIを使用した。BEVIは留学・国際プログラムのアセスメント・PDCA・教育的介入のためのツールであり、現在文部科学省「大学の国際化促進フォーラム」のプロジェクトに採択されており、60近い大学・高専（世界では欧米を中心に300大学以上）が継続的に利用している（広島大学西谷元特命教授による「SIIEJ2023セッションの概要」より。<https://siiej.org/>）。参加学生にとってのBEVIは、留学前（今回は留学中に実施）と留学後に、各個人の「信念」に関する185の質問項目に回答することで、自分自身の根本的な信念や価値観、世界観とその変化について測定することができるというツールである。

調査の概要（中間報告）は以下の通りである。

- (1) 調査の目的：交換留学プログラム改善のための一つの調査として、BEVIにより測定した留学による変化について、教員が学生一人ひとりと面談を行うことにより、留学による自己変革についての自己分析とその言語化を支援することである。
- (2) 調査対象：令和4年度の交換留学プログラムに参加した静岡大学の学生20人。
- (3) 調査方法：調査の目的等の概要を記したメールを送付し、1回目（T1）のBEVI受検を依頼した。
- (4) 調査期間：令和4年12月～令和5年1月。
- (5) 回収結果：15人（75%）。

今後は留学を終了する学生から順に2回目（T2）のBEVI受検を依頼し、同意が得られた者に対して個人面談を実施していく予定である。現時点（2023年7月8日）では、15人中3人が令和5年5月に留学を終了し、2回目（T2）のBEVIを受検した。また、3人中1人に対して個人面談を実施した。全ての調査が終了するは2023年9月の予定である。最終的な調査のまとめは次号紀要で報告する。

このように、コロナ禍は続いたが、交換留学が本格的に再開されたのに加え、イギリス・フランスの春季短期留学も実施され、併せてオンラインプログラム等のグローバルプログラムや語学講座など、今後の留学につながる支援・活動が引き続き行われた。